

○ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツの推進に向けて

先端技術を活用したコンディショニング基盤実証研究事業（令和6年度～）

目的：アスリートだけでなく、一般国民にも普及が進んでいるデジタルデバイス（スマートフォン、スマートウォッチ等のウェアラブルデバイス等）を活用して、適切な運動実施の促進につながるよう、急速に進化している生成AIも活用し、個人の心身の状態等に応じたコンディショニング方法を提供する。

→ネットワーク等を用いた心身データの測定等に関する研究、心身データの互換・結合・統合に関する研究 等

ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツの推進に係る調査研究（令和5～6年度）

目的：運動・スポーツの効果を高めるため、それぞれに適した方法や目的を定めた運動・スポーツ（目的を持った運動・スポーツ）を実施し、先進デジタル技術等も活用して、それぞれのライフステージにおいて最高の能力が発揮できる状態（ライフパフォーマンスの向上）を目指す。

1) ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツの実践に関する実態・ニーズ調査

→ ハイパフォーマンススポーツでのサポートで得られたスポーツ医・科学の知見や事例等の集約・整理、ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツの実践プログラム（方法例）の提案 等

2) 指導者養成のための手引き、ツール、カリキュラムの作成

→ 目的を持った運動・スポーツを指導する者のための手引きやツール、カリキュラムの作成、指導者育成のためのセミナーの開催 等

3) 運動・スポーツの欲求等を高め、多くの人々の運動・スポーツの実施を促進するセンシングデータの活用方法等に関する調査研究

→ センシングデバイスを含む計測機器から得られたデータを活用した取組等の実態調査、データをフィードバックする有効性の検証 等

コンディショニングに関する研究（令和4～5年度）

目的：東京大会で得られた科学的知見等の一般への普及と、新たな視点でスポーツの価値を高めることによる実施率の向上を目指す。

1) スランプの要因と解決策に関する調査研究

→スランプ時の対応策の在り方を検討し、スポーツ時や産業での活用方法例を報告 等

2) 運動器機能低下に対する地域における効果的な運動療法のあり方に関する研究

→北海道東川町における腰痛予防のための運動介入プログラムの効果を実証

3) スポーツの価値を高めるための運動・スポーツが身体に与える影響に関する新たな研究促進と医学的知見の集積に向けた調査研究

→身体挙動による腹部内臓器の挙動と身体機能等との関連を分析し、横隔膜等を意識した運動の重要性を示唆。
スポーツ観戦が主観的幸福感等に及ぼす影響や、ライブでのホームゲーム観戦が観戦者の心拍の同調等と与える影響を分析し、観戦の面白さや選手・大学との一体感、ロイヤリティ（帰属意識）を高めることなどを示唆。

得られた成果を
成果報告会で
報告し、Sports
in Life推進プロ
ジェクトのホーム
ページ等で周知

○地域住民の運動・スポーツの習慣化に向けて

スポーツによる社会課題解決推進のための政策に資する研究（令和4～5年度）

目的：スポーツの価値を更に高め、国民のスポーツ実施率向上や、スポーツを通じた社会課題解決推進のための政策に資する研究等を実施し、得られた成果を科学的根拠に基づいた政策立案や健康スポーツの普及啓発につなげる。

1) スポーツ実施が社会保障費（医療・介護）に及ぼす効果及びその評価方法に関する研究

→ 運動・スポーツ習慣化促進事業において、追加実施事項として審査の加点要素として「運動・スポーツの実施が社会保障費に及ぼす効果の評価」の追加（令和6年度～）

2) 地域における健康づくりに資する安全かつ効果的な運動・スポーツを推進するための事業の在り方に関する研究

→ 同事業において、自治体に対する支援期間を、単年度から複数年度（3年程度）へ変更（予定（令和7年度～））

安全なスポーツ活動支援などスポーツに関する情報提供の仕組みづくり（日本医師会と連携した運動・スポーツ関連資源マップ構築に向けた検討）（令和3～4年度）

目的：医師が患者に運動（療法）を勧める際に、運動実施者（患者）に適切な運動・スポーツの場をマッチングするため、運動・スポーツ環境（ハード）と指導者等（ソフト）の情報を統合して見える化する「運動・スポーツ関連資源マップ」を、特定の地域（モデル地域）で作成及び試行し、その過程において、実用化に向けて必要な知見と課題等を把握し、整理する。

→ 運動・スポーツ習慣化促進事業において、追加実施事項として「運動・スポーツ関連資源マップの作成・活用」の追加（令和7年度～）